



医療法人協愛会 阿知須共立病院広報誌

TEL 0836-65-2200 FAX 0836-65-4436

きらりん&まもるちゃん
(当院イメージキャラクター)



阿知須共立病院 病院だより

2026
初春号
early spring



医療法人協愛会理念

- 1 “地域の安心支援拠点” 安心と信頼を提供します
- 2 “皆さまの健康長寿” その人らしい生活をささえます
- 3 “四者満足” 希望と満足を実感できる法人でありつづけます

基本方針

- 1 “思い”を大切にした医療・予防・ケアに取り組みます
- 2 安全・納得の技術を提供します
- 3 切れ目のない地域連携で皆さまを支えます
- 4 24時間、365日、まごころサービスで皆さまを支えます
- 5 安心と信頼を提供できる人材を育成します

認定施設

【医療】

日本医療機能評価機構認定病院
日本循環器学会認定 循環器専門医研修関連施設
日本腎臓学会認定教育施設
日本透析医学会専門医制度 教育関連施設
日本認知症学会専門医制度 教育施設
日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設
日本外科学会外科専門医制度関連施設

【予防医学】

人間ドック健診施設機能評価認定施設
日本人間ドック学会専門医研修施設
日本脳ドック学会認定施設

当院医療DX推進のご紹介(第1回)

医療DXの取り組みについて

近年、医療分野に限らず「DX」というキーワードを多く目にするようになりました。DXとは「デジタルトランスフォーメーション」の略称で、直訳すると「デジタル変革」となります。

具体的には、IoT(モノをインターネットに接続して相互にデータ通信や制御を行う技術)やAI(人工知能)、ビッグデータ等のデジタル技術を活用して、ビジネスや社会、生活の形・スタイルを変えることを指します。

また、診療報酬や介護報酬制度の中でも、DX推進が謳われており、見守りカメラやセンサーの活用、AIを活用した文書作成の支援、音声入力による記録の支援、スマートフォンを利用した情報共有の仕組み等を活用することで、業務負担の改善や安全な療養環境の提供に向けた取り組みが推奨されています。

当法人では、この「DX」の取り組みを推進することで、業務負担の軽減や医療及び介護のサービスの質の向上に繋がるように努めています。

その中の一つが、国が推進している「オンライン資格確認システム」で、マイナンバーカードにより保険資格を確認するものです。当法人では、令和4年1月から運用を開始しています。

また、法人内のコミュニケーション手段として構内PHSを使用していましたが、令和3年8月からは、スマートフォンに変更して、情報の共有に活用しています。

医療及び介護の分野においても、今後は益々のDX推進の取り組みが求められていく中で、当法人にとって必要なものを検討し、安心安全な職場環境や療養環境の構築並びに、患者さま・ご利用者の皆様の利便性向上に寄与できるように努めてまいります。



勤怠管理システムの全面刷新

当法人では、2026年1月から、これまでの勤怠管理システムに替わり、新しい勤怠管理システムに全面刷新いたしました。

～新しいシステムでできること～

- ・勤務時間の客観的把握(ICカードによる打刻)
- ・勤務変更、休暇申請などの完全電子化
- ・職員各自による勤務予定・実績の確認 など

これまで、紙による申請と電子による管理の併用でしたが、時代の要請もあり、この度、思い切って全面電子化に踏み切りました。これにより、職員各自が自身の勤務予定・実績をしっかりと確認し、働き方の選択が可能になることが期待できます。

まだ始まったばかりですので、細かな点は日々修正・調整が必要ですが、このシステムを職場全体でしっかり育てていきたいと思っています。



第8回 永年勤続表彰式を執り行いました!

職員の永年に亘る業務上の貢献への感謝と未来の貢献への期待を目的に、当法人では永年勤続表彰制度を創設しており、毎年11月の創立記念日に表彰を行っております。

勤続20年と30年のスタッフを対象にしており、この度の表彰対象者は10名。うち9名が式に出席し、感謝状と副賞を受賞されました。

地域の方々はもちろんですが、永年に亘る職員の支えがあって、法人の今があると思います。医療や介護現場の最前線に立ち、家庭と仕事を両立させ、それぞれ専門職として、長きに亘り大きな貢献をしていただきました。そんな10名のみなさんの活躍に、感謝の気持ちで一杯です。

三好智之病院長から感謝状と副賞を贈呈の後、三好正規理事長からのユーモアと愛情たっぷりのコメントをいただき、笑いと感動に包まれた式典となりました。

受賞者を代表して、平成7年入社の 藤井郁英 医師(総合健診センター センター長)から、「あっという間に気づけば30年。皆さまのおかげです。今日までいろいろなことが起きましたが、当法人はその都度、時代の変化に対応してきました。これは素晴らしいことです。これからも頑張りますのでよろしくお願ひします。」と感謝のコメントをいただきました。

これからも職員一同、力を合わせて、地域の皆様に最善の医療を提供し続ける法人として邁進して行きましょう!



表彰式後、三好智之病院長、三好正規理事長と受賞者とともに記念撮影

優しさを伝える技術 ユマニチュード® 講演会を行いました

■「ハートフルな病院作り」に向けて

— ユマニチュードの心と優しさを伝える技術を学ぶ —

2026年2月10日(火)、一般社団法人 日本ユマニチュード学会の水上智美先生をお招きし、「優しさを伝える技術」であるユマニチュード講演会を行いました。当日は職員約70名が参加しました。

「ユマニチュード」とは、フランスのイヴ・ジネスト氏とロゼット・マレスコッティ氏が1979年に考案したケア技法です。ユマニチュードという言葉には、「人間らしさを取り戻す」という意味が込められています。

ユマニチュードでは、すべてのケアを通して介護を受ける人に「あなたのことを大切に思っています」というメッセージを伝えます。実践することで患者様・利用者様との間に心が通い合い、ケアが劇的に変わっていきます。そのための技術を詰め込んだのが、「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの柱です。

ユマニチュードを学ぶきっかけになったのは、重度認知症の方のケア抵抗(拒否)や、従来の介護法の限界に直面したことでした。日々の関わりの中で「どうしたらもっとうまくコミュニケーションがとれるのか」「どうすれば思いに寄り添ったケアを実現できるのか」を模索する中、一人の職員から「ユマニチュード・ケア、これならコミュニケーションのあり方を変えられるのではないか」との提案がユマニチュードの取り組みの始まりでした。



■「人間らしいケア」のために

講演会では、ユマニチュードの概要の説明、動画視聴、実演、振り返りという内容で質疑応答を含め90分行いました。

動画で見ると、ユマニチュードの効果にビックリしました。気が立っているように暴言を放っていた方が穏やかになり、フレンドリーになる姿。このような変化を見ると、ホッとした気持ちになります。

「人間らしいケア」というと、「当たり前にする」と思いがちですが、患者様・利用者様にとって、関わり方の行き違いが不安を助長させてしまいます。例えば、患者様・利用者様の横から声を掛ける。その姿は一見良い対応のように思いますが、認知機能の低下などで視野が狭くなっている方が横から声を掛けられることは、私たちにとっては背後から突然声を掛けられるようなものです。

この度の講演会は、今後患者様・利用者様に対してどのような関わりを目指すか、職員全員で考える有意義な時間になりました。



■「強制ケア」からの行動変容

これまでのケアは、ルールに沿った業務を行うことが良いことだと思っていました。しかし、そのことが「強制ケア」になっており、そのことに気が付くことが出来たことは大きな行動変容となりました。

ユマニチュードの考え方により、相手を尊重し丁寧に関わることで、今まで気付かなかった変化に気づけるようになりました。さらに「こんなケアをしたら喜んでくれた」という喜びを職員同士で共有することができ、それぞれの方に合ったケアを追求できるようになりました。

そして、実践したケアで患者様・利用者様が変わっていく姿を目にすることで、自然とやりがいを感じるようになりました。このことを、身をもって経験すれば、ユマニチュードの必要性も理解できると思います。まずは実行です。今後の課題は、ユマニチュードの技術がなぜ必要なのか、その考え方をしっかりと職員一人一人に浸透させていくことです。そのために法人全体でユマニチュードを実践できる体制づくりに取り組んでいきたいと思っています。

HUMANITUDE およびユマニチュードの名称およびそのロゴは、日本国およびその他の国における仏国 SAS Humanitude 社の商標または登録商標です。

参加者からいただいた声

ケアを行う前のいい関係を築くことが大切と感じた。少しでもユマニチュードを実践できるよう心がけていきたい。

まずはできそうな方から実践したい。患者様の表情、発言が前向きになればもっとケアが楽しくなると思う。

目線を合わし、声をかけることが大切だとわかった。認知症患者だけでなく全ての方に効果的と思う。

優しさにあふれる職場になるために、とても有効な手段だと感じた。

認知症の方だけでなく全ての患者・利用者様に心を込めてケアに取り組みたい。自分も楽しく仕事ができると思う。

実践的で有効な技法と理解できたので業務に取り入れたい。一人でも多くの職員ができると雰囲気は良くなると思う。

老人保健施設ニューライフあじす「広報誌『DEAR』」をリニューアルしました

この度、老人保健施設ニューライフあじすの「広報誌『DEAR』」は、地域の皆様により身近で、親しみやすい広報誌として2026年2月号(2月発行)より誌面を大幅にリニューアルいたしました。

コンセプトは“地域と共に、いつもあなたのそばに”です。地域の皆様との、より良いつながりを目指し、広報PR(パブリック・リレーションズ)が持つ“よい関係づくり”という意味を大切にしたいという思いを込めて、タイトルは「DEAR=親愛なる」にしました。

誌面のコンテンツ(構成)は2つです。

①Front Line(地元地域のお店や企業を紹介するページ)

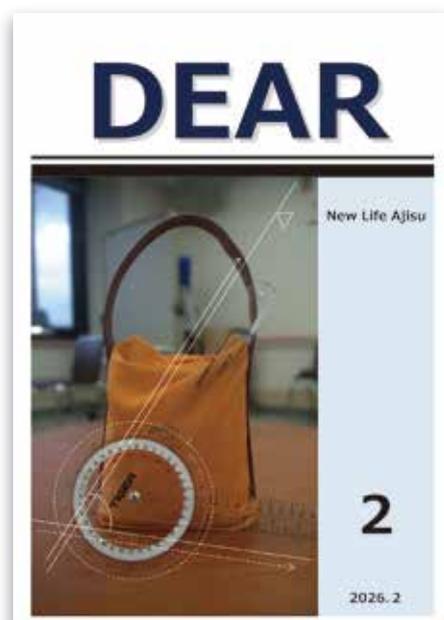
プロフィール、開業までのエピソード、大切にされていることを取材させていただき、ご紹介します。

②Expert(当施設に勤務する職員を紹介するページ)

職員の皆さんにしっかりスポットライトを当てます。真剣な眼差し、人柄、仕事へのこだわり、いつも心がけていること、思い、強みなどをわかりやすくお伝えします。

広報誌を通して、地域の皆様とユニークで明るいコミュニケーションができればと思っています。地域の皆様が気軽にご相談いただけ、地域の皆様の「知りたい」情報や魅力あふれる活動を、これまで以上に充実させて発信していきます。

この新しい「広報誌『DEAR』」を、ぜひお楽しみください。



第18回 看護・介護研究発表会を開催しました

2026年2月19日(木)17:45から、当院ホールにおいて、院長始め約80名の職員の参加により、第18回看護・介護研究発表会を開催いたしました。

看護部門各病棟及び外来所属のスタッフが、各部署における業務遂行の中で気づいた課題を研究テーマとして、院内アドバイザーや遠くから来て頂いた研究アドバイザーの指導を仰ぎつつ、約1年間、全10回に亘る中間協議を経て取り組んで来た成果を発表したものです。

発表テーマは以下の4題、パワーポイント資料にも工夫を凝らし、各7分間の発表を行いました。

演題1.「介護職員における新人教育の方法とストレスについて」:地域包括ケア病棟

演題2.「大腿骨近位部骨折術後患者の食事摂取量変化に影響を与える要因」:一般急性期病棟

演題3.「経管栄養の患者における褥瘡発生要因の検討」:医療療養病棟

演題4.「化学療法を受けている患者へのパンフレットを用いたステロイド性骨粗鬆症予防教育の効果」:外来看護

回を追うごとに研究レベルは向上し、パワーポイントによる発表もグラフや図を使って、より分かり易く工夫するなど、参加者も発表内容に引き込まれておりました。各演題とも質疑応答が相次ぎ、予定の時間をオーバーして終了しました。

院長の講評挨拶の中で、「忙しい勤務の中で長期間取り組んで頂き、ありがとうございました。皆様のご努力がうかがえる素晴らしい発表でした。これからも日常の気付きを大事にして、継続的に取り組んで行ってください。」との嬉しい言葉を頂きました。また研究アドバイザーからは、「阿知須共立病院の研究成果は、自院の中でも活用しています。」との言葉を頂き、参加者一同大満足の内に終了することができました。

次年度以降も研究取組みを継続し、医療の質的向上にスタッフ全員で取り組んで参ります。



新 任 医 師 の ご 紹 介



田村 寛子 (たむらひろこ) 医師 ★

2025年12月から、週2日(火曜日・水曜日の午前)外来で勤務しております。

*2026年4月からは、木曜日の午前も勤務(週3日)することになりました。

専門は呼吸器内科、総合内科です。

子育て期の真っ最中ですが、ワーク・ライフ・バランスを考えながら、地域の皆さまに安心して頂けるよう、一生懸命診療に取り組んで参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



桂 建輔 (かつらけんすけ) 医師 ★

2022年4月から、当院の外来(脳神経外科)等で勤務しておりましたが、2026年3月から週3日間(月曜日・火曜日・金曜日)勤務することになりました。

救急外来を主に担当いたします。

地域の皆さまの救急医療を守り、健康長寿にお役に立てるよう、幅広い視野で診察にあたりたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

これらに伴い、外来枠・曜日の変更があります。
受診の際にはお間違えの無いよう、
ご確認の上ご来院頂きますようお願いいたします。



購 買 課 の 紹 介

皆さん、こんにちは。「購買課って、売店？」と、思っておられる方もいらっしゃると思います。他の病院では、用度課と呼ばれていることもあるようです。

皆さんにきちんとご理解頂きたく、購買課についてご紹介させていただきます。

購買課の仕事内容は、医療機器、医療材料、消耗品などの物品調達と物流管理です。診察や手術、検査等に使用する高額な医療機器から1本1円に満たない医療材料、食器スポンジ等の日用品まで、約3,000種類に及ぶ様々な物品の購入、在庫管理を行っています。社用車で近所のお店へ買い物に出ることもあります。

また、コスト削減も購買課の大事な仕事です。随時、業者との価格の交渉や、システムを活用して市場調査を行い、適正価格での調達を目指しながら、コストの管理・削減に日々取り組んでいます。

購買課の仕事は、病院にとって、とても大切な役割を担っているのです。少ないスタッフで、これからも頑張ってお参ります。



外来診療案内

2026/3/1

阿知須共立病院

(病院代表)0836-65-2200

(病院FAX)0836-65-4436

(健診センター)0836-65-2711

診療時間	平日	9:00~12:30(受付時間 8:30~12:00)
		14:00~17:30(受付時間 13:00~16:30)
	土曜	9:00~12:30(受付時間 8:30~12:00)

休診案内	第5土曜日、日曜、祝日及び8月15日・16日、12月30日~1月3日
	上記時間外・深夜・休日は、当直医がおりますので、急患は受付させていただきます。

*訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ、介護老人保健施設・福祉施設、短期入所、通所リハビリ等の介護保険のご相談にも応じます。

		月	火	水	木	金	土	専門分野
内科	午前	次田 正	岸 堯之	松原弘子	杵築信明	杵築信明	1週 鈴木千衣子 糖尿病医師 呼吸器医師	鈴木 内科一般・消化器内科・肝臓内科
		古霜友貴	松原弘子	鈴木千衣子	中村吉秀	中島拓海	2週 三好正敬 佐島秀一 呼吸器医師	三好 内科一般・循環器内科・腎臓内科 正敬
		松原弘子	三好正敬	沖田 極	鈴木千衣子	三好正敬	3週 鈴木千衣子 糖尿病医師 呼吸器医師	岸 内科一般・放射線科 松原 内科一般・糖尿病内科 沖田 内科一般・肝臓内科・消化器内科
		杵築信明	田村寛子	田村寛子	沖田 極	沖田 極	4週 三好正敬 佐島秀一 呼吸器医師	武山 内科一般 杵築 内科一般 次田 内科一般
	午後	岸 堯之	松原弘子	沖田 極	中村吉秀	中島拓海		田村 内科一般・呼吸器内科 佐島 内科一般
		古霜友貴	次田 正	睡眠時 無呼吸外来 (三好正敬)	沖田 極	沖田 極		古霜 内科一般・循環器内科 中村 内科一般・循環器内科 中島 内科一般・糖尿病内科 糖尿病 内科一般・糖尿病内科 呼吸器 内科一般・呼吸器内科
脳神経外科	午前					1週 埴口史帆		埴口 脳神経外科一般 古谷 脳神経外科一般
	午後					2週 古谷奈津子		
3週 埴口史帆								
4週 古谷奈津子								
5週 埴口史帆								
外科	午前	千々松日香里	原田俊夫	小佐々貴博 (手術)	千々松日香里	原田俊夫	1週 原田俊夫 2週 千々松日香里 3週 原田俊夫 4週 千々松日香里	原田 外科一般・消化器外科・乳腺外科・ 血管外科・呼吸器外科
	午後		(手術)	(手術)	(手術)	ストーマ外来 (第1・3週)	千々松 外科一般・消化器外科・乳腺外科 小佐々 外科一般	
整形外科	午前	寺崎隼人	三好智之	三好智之	三好智之	松木佑太	三好智之 または 村松慶一	三好 整形一般 智之 整形一般・脊椎脊髄外科 田口 整形一般・手の外科・骨軟部腫瘍 村松 整形一般・股関節・下肢外傷 松木 整形一般 寺崎 整形一般
	午後	(手術)		田口敏彦	(手術)			
	訪問診療	午前						原田 外科一般・消化器外科・乳腺外科・ 血管外科・呼吸器外科
健診	午前	フォローアップ	フォローアップ	フォローアップ		フォローアップ	フォローアップ	藤井 内科一般・人間ドック
	午後		フォローアップ	フォローアップ	禁煙外来 (当面の間休診)	フォローアップ		

	内容	開催日	受付時間	予約	担当医師
専門外来 (完全予約制)	減酒外来	毎週水曜日	14:00~16:00	必要	鈴木千衣子
	睡眠時無呼吸外来	毎週水曜日	14:00~16:00	必要	三好正敬
	禁煙外来	毎週木曜日	13:30~16:00	当面の間休診	藤井郁英
	ストーマ外来	第1・3週金曜日	14:00~15:00	必要	原田俊夫